

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	グルーミング実習Ⅰ	
担当教員の実務経験	ペットショップにてトリマーの実務経験がある。 動物病院にてトリマーの実務経験がある。	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	45 コマ ・ 3 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	正しい道具の使い方を学び、基本的なグルーミング技術の習得。 犬の扱い方、基本的な保定方法の習得。	
授業の到達目標	基本のグルーミング技術を習得し、犬種ごとに安全なグルーミング作業を行えるようになる。また、犬の扱い方や、その犬に合う保定方法を実践習得する。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習	担当犬のカルテを事前にチェックする。 実習終了後はグルーミング記録を記入し提出する。	
使用教科書・教材・参考書	グルーミングの基礎	
授業上の注意点	モデル犬の予約状況により、内容が変更する場合がある。	
授業計画（内容）		コマ数
①ブラッシング②コーミング 正しい道具の使い方・作業法・保定法を習得		8
③爪切り④耳掃除 正しい道具の使い方・作業法・保定法を習得		8
⑤肛門囊の処置の仕方 正しい作業法・保定法を習得		6
⑥シャンプー⑦ブロー 正しい犬の洗い方～乾かし方を習得		8
⑧基本的なクリッピング（足裏・腹部・肛門周辺） 正しい道具の使い方・作業法・保定法を習得		8
⑨基本的なシザーリング（足周り・ヒゲ切り） 正しい道具の使い方・作業法・保定法を習得		4
⑩口腔内衛生管理の仕方 正しい作業法・保定法を習得		3
合計		45
授業単位数		3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	ドッググッズⅠ	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	愛犬と飼い主さんが喜んでくれるよう、心を込めて愛犬の身に着けるグッズをリボンを中心として制作する。	
授業の到達目標	リボンの作り方と素材の扱い方、安全安心なグッズ制作ができる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）	コマ数	
リボン制作材料の準備、リボンA作り方の説明と師範		1
実習 リボンA制作		2
リボン仕上げの説明と師範		1
実習 リボンA仕上げ		2
リボンB作り方の説明と師範		1
実習 リボンB制作		2
ミニハットの作り方の説明と師範		1
実習 ミニハット制作		2
バンダナの作り方と師範		1
実習 バンダナ制作		2
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	ペットビジネス総合演習Ⅰ（店舗・イベントプロデュース）	
担当教員の実務経験	① ・企業内広報部において、マーケティングリサーチ・分析・企画・広告・宣伝活動ならびに広報広告物およびWEBページの制作の経験がある。 ・事務職において受付業務や銀行業務等の経験がある。 ・商品販売（ならびにアドバイザーとして）の経験がある。 ② ペットショップにて実務経験がある。	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	30コマ	2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	ワークショップならびに学園祭の出店を計画する。利益追求、消費者心理、サービスから広告戦略など多方面から分析し、企画した“ビジネス”の成功を目指す。 具体的な企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人としての基礎力と人間力をつける。「最終的な目的達成」のために必要なプロセスとプランニングに時間軸を敷き、実際のイベント企画・運営を通して顧客満足度からリスク管理までを体系的に学ぶ。	
授業の到達目標	① 作り上げた店舗にて多方面から顧客心理に寄り添った店舗企画ができる。 ② イベントの企画から運営までを実際に体験しノウハウを身につける。 グループワークで各自が役割に対する責務を果たすことによりチーム全体の力を発揮することができることを体得し、グループの中での個の在り方を認識する。自分達の考えたイベントが来場者にどう評価されたかを調査・分析し客観的評価ができる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験・レポート）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習	進捗状況により時間外にも作業に取り組む場合があります。その場合は取得時間数に反映させます。	
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点	イベント企画内容は例年の内容にて掲載しています。 感染症拡大防止の観点により、イベントの中止が判明した場合は課題を変更いたします。	
授業計画（内容）		コマ数
イベントとは？意義と目的について、プランニングと運営について考える		1
企画会議		1
店舗企画※学園祭・ワークショップ （コンセプト、商品、POP制作、空間プロデュース） （制作・仕入れ／グループワーク） （リスクマネジメント） （運営シミュレーションと分析） （広報・宣伝活動） （運営管理※当日）		28
合計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	ペット関連産業概論	
担当教員の実務経験	ペットサロンにてトリマーおよび生体販売の経験がある	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位	
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。	
授業の到達目標	<u>1. ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む。）</u> 1) 責任と社会的役割を理解する（職業倫理） 2) 商取引における関連法規の概要について理解する 3) 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する <u>2. ペットの飼養実態と市場規模</u> 1) ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模について理解する <u>3. 各ペット関連産業の現状と課題</u> 1) ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス（生体分野、美容・ヘルスケア分野、レクリエーション・観光分野、葬儀・霊園分野、獣医療分野、ペット共生住宅・マンション分野など）の現状と課題を理解する。 <u>4. 動物取扱業</u> 1) 動物取扱業制度の概要について理解する 2) 動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法について理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻、愛玩動物飼養管理士	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
ペット関連産業における職業倫理（行動倫理を含む） 1. ペット関連産業における責任と社会的役割 2. 商取引における関連法規の概要 3. 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法 演習問題		4
ペットの飼育実態と市場規模 1. ペットの飼育実態 2. 各ペット産業の市場規模 3. ペット産業全体の市場規模 演習問題		4
各ペット関連産業の現状と課題 1. ペット産業の分類 2. 動物病院の現状 3. 動物病院以外のサービス業の現状 4. 生体販売業の現状 5. ペットショップの現状		4

6. その他ペット産業の現状 演習問題	
動物取扱業 1. 動物取扱業制度の概要 2. 動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法および衛生管理 演習問題	3
合計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	愛玩動物学Ⅰ	
担当教員の実務経験	ペットサロンにてトリマーおよび生体販売の経験がある	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。	
授業の到達目標	<u>歴史と品種</u> 1) 犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど）について理解する 2) 猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど）について理解する 3) 代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する 4) 血統と血統書について理解する <u>使役動物</u> 1) 使役動物（犬、その他の動物）の歴史と福祉について理解する 2) 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の歴史と現状について理解する 3) 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の役割と育成、適性について理解する 4) その他の使役犬（災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬など）の種類と特徴及び現状について理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻、最新犬種図鑑	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		
犬の歴史・品種・飼養管理 1. 歴 史 2. 現在の飼育状況 3. 犬の活用 4. 代表的な品種の特徴 5. 飼養管理 6. 品種に適したグルーミング		10
猫の歴史・品種・飼養管理 1. 歴 史 2. 現在の飼育状況 3. 猫の活用 4. 特 徴 5. ライフサイクル 6. 代表的な品種の特徴 7. 飼養管理 8. 品種に適したグルーミング		4
血統と血統書 1. 血統書の意義 2. 血統書の読み取り方 3. 血統管理と品種改良		1
合 計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	愛玩動物学Ⅱ	
担当教員の実務経験	ペットサロンにてトリマーおよび生体販売の経験がある	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。	
授業の到達目標	<u>愛玩動物の飼養管理</u> 1) 犬の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など）について理解する 2) 猫の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢など）について理解する 3) 愛玩鳥の適切な飼養管理方法（飼養環境、体調管理など）について理解する 4) 代表的なエキゾチック動物（ウサギ、ハムスターなど）の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など）について理解する <u>動物の基本的な取扱い</u> 1) 動物を安全に散歩・運動・ふれあいをさせることの意義について理解する 2) 基本的グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）の目的・方法について理解する 3) 適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻、愛玩動物飼養管理士	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理 1. 歴 史 2. 現在の飼育状況 3. 代表的な品種の特徴 4. 飼養管理		3
ウサギの特徴・生態・飼養管理 1. 背 景 2. 飼養管理		2
げっ歯類 ハムスター・モルモットの特徴・生態・飼養管理 1. 背 景 2. ハムスターの分類・生態・特徴 3. ハムスターの飼養管理 4. モルモットの分類・生態・特徴 5. モルモットの飼養管理		3
フェレットの特徴・生態・飼養管理 1. 背 景 2. 飼養管理		2
カメの特徴・生態・飼養管理		2

1. 背 景 2. 主な品種 3. 飼養管理	
エキゾチックアニマルの繁殖過程 1. 性周期 2. ウサギ 3. げっ歯類 4. フェレット 5. 鳥 類	3
合計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	校外研修Ⅰ	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	・ 1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	校外施設および外部イベントへの参加や見学を行う	
授業の到達目標	業界全体への理解を深める	
成績評価方法と基準		
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点	状況により実施を判断します。 通常の実施が出来ない場合には代替学習への切り替えを行います。	
授業計画（内容）		コマ数
オリエンテーション		5
参加・見学		8
レポート提出		2
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	就職実務 I	
担当教員の実務経験	ファイナンシャルプランナー、コンサルティング会社経営	
対象学生	総合ビジネス科、情報システム科、ビジネス専攻科 医療福祉ビジネス科、ペットビジネス科、愛玩動物看護科	
授業時間数・単位数	18コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	就職活動に向けてのモチベーションを高めていく	
授業の到達目標	講義、実習、模擬面接を通して今後の就職活動に生かしていくことができる	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
社会人としてのモチベーションの保ち方（事例も交えて）		1
コミュニケーションの取り方（コミュニケーションアップの4段階等）		1
コミュニケーションを円滑にするために（ペーシングとその他のスキル等）		1
社会人としての心構え		1
自己分析と自己PRの仕方と対策、アンガーマネジメント診断		1
ジョハリの窓～実践～		1
会社組織を考える		1
社会人基礎力		1
対人不安の克服の仕方と緊張感を和らげる方法		1
働き方を考える。		1
上司とのコミュニケーションの取り方		1
ブレインストーミングとコンセンサスゲーム～実践～		1
面接に向けての配慮事項		1
～模擬面接～		5
合 計		18
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	人と動物の関係学	
担当教員の実務経験	動物看護師としての経験がある	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。	
授業の到達目標	<u>1. 人間と動物の関わり</u> 1) 動物の飼養・利用の歴史について理解する 2) 欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違について理解する 3) 動物の飼養と利用の現状について理解する <u>2. 人間の福祉と愛玩動物の関わり</u> 1) 動物虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識について理解する 2) 多頭飼育問題について理解する 3) 愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼養困難になる様々な事情について理解する <u>3. 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育</u> 1) 動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響について理解する 2) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容について理解する 3) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の公衆衛生学的適性、行動学的適性について理解する 4) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わりについて理解する 5) 学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて理解する（文部科学省が道徳教育の一環として認めていることを含む。）	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻、愛玩動物飼養管理士	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
人と動物の関わり方の歴史 1. 人と動物の関わり 2. 文学・芸術における動物：日本 3. 日本と西洋における動物との関わり方の比較		3
現代の人と動物の関わり 1. 動物の飼育と利用の現状 2. 人の生活に貢献する動物の役割		3
動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育 1. 動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育の定義と歴史 2. 動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育を効果的に実施するには 3. 学校飼育動物の目的や実際、愛玩動物看護師の関わり		3

人間と動物の関わり 1. 人はなぜペットを飼うのか—人が動物をペットとして飼育する理由— 2. ペット飼育の歴史と現状 3. ペットの飼育—人と動物がともに幸せに暮らすために必要なこと— 4. ペットへの愛着と依存 5. ペットロスの定義と対策	3
人間の福祉と愛玩動物の関わり 1. 動物虐待の定義と背景 2. 動物虐待への対処 3. 動物虐待の現状と法規制 4. 多頭飼育崩壊(アニマル・ホーディング)の定義と背景 5. 愛玩動物が子どもや高齢者に与える恩恵 6. 加齢による飼育困難 7. Veterinary Social Work と動物看護師	3
合計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	生命倫理・動物福祉
担当教員の実務経験	ペットサロンにてトリマーおよび生体販売の経験がある
対象学生	愛玩動物看護科 1年生
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []
授業の概要	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。
授業の到達目標	1. <u>生命倫理の概念</u> 1) 生命倫理の考え方について理解する 2) 生命倫理と獣医療の関わりについて理解する 2. <u>動物福祉の概念</u> 1) 動物福祉の考え方について理解する 2) 「5つの自由」（飢え・渇きからの自由、痛み・負傷・病気からの自由、不快からの自由、本来の行動がとれる自由、恐怖・抑圧からの自由）について理解する 3) 世界と日本における近代及び現代の動物愛護運動について理解する 4) 「動物の権利」、「動物福祉」思想や課題について理解する 5) 動物福祉の生理学的指標及び行動的指標による評価法について理解する 6) 安楽死の考え方について理解する 3. <u>愛玩動物の福祉</u> 1) 愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題について理解する 2) 国内外の動物保護活動の現状と課題について理解する 3) 飼養放棄や殺処分問題、対策について理解する 4) 動物のみだりな殺傷・虐待（積極的な虐待とネグレクト）の現状、対策について理解する 5) 飼養動物の災害時の対応について理解する 4. <u>産業動物の福祉</u> 1) 産業動物における福祉上の問題について理解する 2) 国際的な福祉基準について理解する 3) 産業動物の福祉を向上させるための具体的方法について理解する 5. <u>実験動物の福祉</u> 1) 実験動物における福祉上の問題について理解する 2) 3R（Replacement（代替）、Reduction（削減）、Refinement（改善））の概念と具体的方法について理解する 6. <u>展示動物の福祉</u> 1) 展示動物における福祉上の問題について理解する 2) 展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容について理解する
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。
準備学習・時間外学習	
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻、愛玩動物飼養管理士
授業上の注意点	

授業計画（内容）	コマ数
生命倫理の概念とさまざまな動物観 1. 生命倫理の考え方 2. 生命倫理と獣医療の関わり 3. 動物に対するさまざまな考え方と影響を与える要因 4. 動物観の歴史的変遷	2
動物福祉の概念 1. 動物福祉とは 2. 近代の動物愛護運動 3. 現代の動物愛護運動 4. 動物の権利（animal rights）と動物福祉（animal welfare） 5. 日本における動物愛護と世界における動物福祉 6. 動物病院での安楽死の考え方	2
動物福祉の評価 1. 動物福祉の評価とは 2. 動物福祉の生理学的指標 3. 動物福祉の行動学的指標 4. 課題	2
動物福祉と社会 1. 動物福祉と社会 2. 法律と動物福祉 3. 経済活動と動物福祉 4. 動物福祉教育 5. 動物保護活動	2
愛玩動物の福祉 1. 愛玩動物の飼育の現状と福祉 2. 家庭での適正飼養と動物福祉上の問題 3. 愛玩動物の繁殖・流通・利用に関する福祉上の問題 4. 飼育放棄と飼い主のいない犬・猫の問題 5. 愛玩動物福祉のための対策	3
産業動物の福祉 1. 産業動物福祉改善の歴史と定義 2. 産業動物の飼養の概況と動物福祉の課題 3. 産業動物における福祉上の主たる問題 4. 産業動物に関する国際的福祉基準 5. 動物福祉向上の方策	1
実験動物の福祉 1. 実験動物の福祉と動物実験に関する法規制 2. 「3Rの原則」 3. 環境エンリッチメント 4. 獣医学的ケア 5. 実験動物の苦痛の評価 6. 安楽死を伴わない動物実験 7. 労働安全衛生	1
展示動物および使役動物の福祉 1. 展示動物の福祉 2. 使役動物の福祉—身体障害者補助犬（補助犬）を中心に—	1
野生動物の福祉 1. 野生動物の福祉 2. 野生動物の福祉に関する諸問題 3. 対策と課題	1
合計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	適正飼養指導論Ⅰ	
担当教員の実務経験	ペットサロンにてトリマーおよび生体販売の経験がある	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	
授業の到達目標	<u>愛玩動物の飼養</u> 1) 愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する 2) 愛玩動物飼養の現状について理解する 3) 愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する 4) 愛玩動物の飼養のニーズや目的、グリーフケア、ペットロスについてその概要と飼い主の心情を踏まえた必要な支援について理解する <u>適正飼養の推進</u> 1) 適正飼養に関する支援の目的と活動（民間団体等によるものを含む。）について理解する 2) 動物取扱業者における適正飼養について理解する 3) 愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策について理解する 4) 問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
愛玩動物の飼養 1. 適正飼養とは 2. 愛玩動物飼養の現状 3. 愛玩動物によって人間が受ける影響と問題点		4
動物終末期（飼い主）ケア 1. 動物終末期（飼い主）ケアの総論と動物看護師の役割 2. 動物医療グリーフケア® 3. ペットロス		5
適正飼養の推進 1. 適正飼養に関する支援の目的と活動（民間団体等によるものを含む） 2. 動物取扱業者における適正飼養 3. 愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策 4. 問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法		6
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物愛護・適正飼養関連法規	
担当教員の実務経験	動物看護師	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。	
授業の到達目標	1. <u>愛護・適正飼養の基本となる概念</u> 1) 愛護・適正飼養に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する 2. <u>愛護・適正飼養関連行政法規</u> 1) 動物の愛護及び管理に関する法律の概要について理解する 2) 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律の概要について理解する 3. <u>社会福祉行政・環境衛生法規</u> 1) 身体障害者補助犬法について概要を理解する 2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律の概要について理解する 3) 化製場等に関する法律の概要について理解する 4. <u>野生動物等に関する法律及び条約</u> 1) 生物多様性の概要について理解する 2) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の概要について理解する 3) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の概要について理解する 4) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の概要について理解する 5) 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の概要について理解する 6) 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約の概要について理解する 7) 自然公園法における野生動植物保護に関する制度を理解する 8) 文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度を理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻、愛玩動物飼養管理士	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
愛護適正飼養関連行政法規		
1. 動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）		8
2. 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律（ペットフード安全法）		
社会福祉行政・環境衛生法規		
1. 身体障害者補助犬法（補助犬法）		3
2. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）		
3. 化製場等に関する法律		
野生動物等に関する法律及び条約		4

1. 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）	
2. 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）	
3. 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護管理法）	
4. 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）	
5. 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）	
6. 自然公園法における野生動植物保護に関する制度	
7. 文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度	
合計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

<愛玩動物看護科>

科目名	動物愛護・適正飼養実習Ⅰ	
担当教員の実務経験	① 秋田県動物愛護推進協議会委員を務める ② 動物病院にて犬舎管理の実務経験がある ③ ペットショップにて生体管理の実務経験がある	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	学校保有動物の適切な飼養管理を学ぶ。 直接管理することで動物に対する責任感を身につける。	
授業の到達目標	学校保有動物に関して基本的な飼養管理ができる。 衛生的な飼養環境を保つ。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習	土・日・祝日・長期休暇の場合は当番制で飼養管理を行う。	
使用教科書・教材・参考書	動物看護実習テキスト	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
学校保有動物の飼養施設の掃除の仕方を学ぶ。		2
管理記録台帳および、健康管理記録の記入の仕方を学ぶ。		1
適切な消毒方法を理解する。		1
飼養管理に必要な道具などを理解し、使いこなせるようになる。		1
学校保有動物を観察し、性格や行動を理解し接し方を学ぶ。安全なハンドリングができる。		1
学校保有動物の運動について理解を深める。安全に散歩・運動させることができる。		1
学校保有動物の健康管理について理解を深める。正常と異常の違いを知る。		1
健康維持のために、どのようなボディケアが必要かを理解する。		1
学校保有動物の食事について理解を深め、食事の与え方を学ぶ。		1
動物愛護管理行政について理解する		5
合 計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

<愛玩動物看護科>

科目名	動物愛護活動Ⅰ		
担当教員の実務経験	秋田県動物愛護推進協議会委員		
対象学生	愛玩動物看護科 1年生		
授業時間数・単位数	15コマ	・	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]		
授業の概要	動物愛護活動に取り組む。 秋田県動物愛護推進計画を理解する。		
授業の到達目標	愛玩動物飼養管理士として行うべき普及啓発活動の意味とペット業界従事者に求められていることを理解する。		
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験・レポート）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。		
準備学習・時間外学習			
使用教科書・教材・参考書	資料配布		
授業上の注意点			
授業計画（内容）			コマ数
秋田県動物愛護推進計画を理解する			2
いのちを繋ぐ取り組みについて理解する			
動物愛護フェスティバルについて理解する			
秋田県動物愛護フェスティバルについて概要を理解する			
動物愛護に関わるボランティアを計画し実行する			12
レポート			1
合計			15
授業単位数			1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物医療コミュニケーション	
担当教員の実務経験	動物看護師、マナー講師	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。	
授業の到達目標	1. クライアントエデュケーション 1) 適正飼養について理解し、健康管理のため必要な情報を飼い主に提供できる 2) 動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する 3) 病気の適切な予防法（予防接種、フィラリア予防、ノミ・ダニ予防、歯科予防、去勢・不妊手術など）について理解する 4) 在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する 2. 院内コミュニケーション 1) 飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する 2) 獣医療面接のプロセス（導入、稟告、質問、傾聴、要約、確認、終結など）について理解する 3) チーム獣医療に関するコミュニケーション技能（報告・連絡・相談）について理解する 3. 院内業務 1) 受付業務（診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など）について理解する 2) 物品購入や管理について理解する 3) ペット保険について理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
獣医療面接 1. コミュニケーション能力 2. 動物看護学における獣医療面接 3. 獣医療面接を用いた事前問診の方法 4. 身体検査 5. 獣医療面接の終え方 6. その他の獣医療面接の技法を使った具体的な対応		4
クライアントエデュケーション（飼い主教育） 1. クライアントエデュケーション（飼い主教育）とは 2. 例題による臨床現場での飼い主指導のポイント（飼養管理を除く）		4
院内コミュニケーションと病院マナーマネジメント 1. 飼い主指導を主体としたインフォームドコンセント 2. チーム獣医療に欠かせないコミュニケーション能力の基本 3. 動物病院マナーマネジメントにおける物品の購入や管理 4. ペット保険の対応		4
マナー講習		3
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物栄養学Ⅰ	
担当教員の実務経験	動物看護師	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。	
授業の到達目標	<u>基礎栄養</u> 1) 5大栄養素（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）について理解する 2) 栄養要求の種差（必須アミノ酸、必須脂肪酸など）について理解する 3) 食性、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する 4) 健康維持における栄養の持つ意味について理解する 5) 栄養素の不足、過剰症について理解する <u>栄養要求量</u> 1) エネルギー要求量（RER、MERなど）の意味と計算法について理解する 2) 栄養基準（AAFCO、NRCなど）について理解する 3) ライフステージ（成長期、維持期、妊娠期、授乳期、老齢期）ごとの栄養管理について理解する <u>フードと栄養指導</u> 1) ペットフードの種類、分類について理解する 2) ペットフードのラベル表示について理解し、飼い主に説明できる 3) 中毒、与えてはいけないものについて飼い主に指導できる 4) 栄養状態の評価法（BCS、体脂肪測定など）について理解する 5) 肥満の弊害と減量プログラムの作成法について理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
犬・猫の基礎栄養 1. 栄養と栄養素 2. 犬・猫の食性、摂食行動、嗜好性、異嗜、摂食量、飲水量 3. 犬や猫に与えてはいけない食材・添加物（禁忌食）		3
栄養評価法 1. 犬と猫のエネルギー評価法 2. 犬と猫の栄養要求量ガイドライン 3. 犬と猫のライフステージと栄養 4. 犬と猫の栄養状態評価法		3
フード 1. ペットフードの歴史		3

2. ペットフードの種類 3. ペットフードの製造方法 4. ペットフードに使用される原料 5. サプリメント 6. ペットフードの法規制	
栄養指導 1. 栄養診断“ この子の理想体重は？ ” 2. 適正給与量“ どのくらいフードを与えればよいのか？ ” 3. フードの選択“ どんなフードを与えればよいのか？ ” 4. 肥 満	3
特別療法食	3
合計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物感染症学Ⅰ
担当教員の実務経験	獣医師 動物看護師
対象学生	愛玩動物看護科 1年生
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []
授業の概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。
授業の到達目標	1. 微生物の分類と特徴 1) 細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 2) ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 3) 真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 2. 微生物検査 1) 検体採取と取扱いについて理解する 2) 無菌環境下での必要な手技について理解する 3) 微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する 4) 微生物培養法について理解する 5) 抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法（PCR検査含む。）について理解する 6) 薬剤感受性試験について理解する 3. 寄生虫の分類と特徴 1) 原虫の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 2) 蠕虫（吸虫、条虫、線虫）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 3) 衛生動物（ダニ、ノミなど）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 4) 寄生虫疾患の検査、診断法について理解する 5) 駆虫薬や駆除剤の使用法について理解する 4. 動物感染症 1) 病原体の感染経路と伝播様式について理解する 2) 感染症の成立要因について理解する 3) 主な感染症（動物臨床看護学各論の3. 代表的な疾患を参照）の症状、治療法、予防法について理解する 4) 消毒、滅菌法について理解する 5) 院内感染の予防対策について理解する 5. 免疫学の基礎と応用 1) 免疫担当細胞とその役割について理解する 2) 自然免疫と獲得免疫について理解する 3) 液性免疫と細胞性免疫について理解する 4) アレルギー（Ⅰ～Ⅴ型）と自己免疫疾患について理解する 5) ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。
準備学習・時間外学習	
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻

授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
微生物、感染症および微生物学の歴史		1
ウイルス学総論 1. ウイルスの分類 2. ウイルスの大きさ・構造 3. ウイルスの増殖・感染・変異 4. ウイルスの伝播		2
細菌学総論 1. 細菌の分類 2. 細菌の大きさ・形態・構造 3. 細菌の増殖・代謝 4. 細菌の遺伝子 5. 細菌の感染・発症		2
真菌学総論 1. 真菌の分類と特徴 2. 真菌の増殖にかかわる要因 3. 真菌の増殖様式と真菌種名 4. 人獣共通感染症としての真菌		2
プリオン総論 1. プリオン病		1
微生物検査法 1. 微生物検査におけるバイオセーフティ 2. 滅菌と消毒 3. ウイルス検査法 4. 細菌検査法 5. 真菌検査法 6. プリオン病の検査・診断法 7. 薬剤感受性試験 8. PCR 検査法		2
免疫応答の異常 1. 自己免疫による疾患 2. 免疫異常による疾患 3. 移植における免疫反応		2
動物感染症 1. 病原体の感染経路と伝播様式 2. 感染症の成立と統御要因 3. 感染症と病原体および生体防御機構 4. ワクチンの原理と種類 5. 治療に用いる抗ウイルス薬 6. 抗菌薬と薬剤耐性菌		2
感染症の制御・制圧 1. 農林水産省行政による動物感染症対策 2. 厚生労働省行政による動物由来感染症対策 演習問題		1
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物感染症学Ⅱ
担当教員の実務経験	動物看護師
対象学生	愛玩動物看護科 1年生
授業時間数・単位数	30コマ ・ 2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []
授業の概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。
授業の到達目標	1. 微生物の分類と特徴 1) 細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 2) ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 3) 真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 2. 微生物検査 1) 検体採取と取扱いについて理解する 2) 無菌環境下での必要な手技について理解する 3) 微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する 4) 微生物培養法について理解する 5) 抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法（PCR検査含む。）について理解する 6) 薬剤感受性試験について理解する 3. 寄生虫の分類と特徴 1) 原虫の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 2) 蠕虫（吸虫、条虫、線虫）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 3) 衛生動物（ダニ、ノミなど）の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 4) 寄生虫疾患の検査、診断法について理解する 5) 駆虫薬や駆除剤の使用法について理解する 4. 動物感染症 1) 病原体の感染経路と伝播様式について理解する 2) 感染症の成立要因について理解する 3) 主な感染症（動物臨床看護学各論の3. 代表的な疾患を参照）の症状、治療法、予防法について理解する 4) 消毒、滅菌法について理解する 5) 院内感染の予防対策について理解する 5. 免疫学の基礎と応用 1) 免疫担当細胞とその役割について理解する 2) 自然免疫と獲得免疫について理解する 3) 液性免疫と細胞性免疫について理解する 4) アレルギー（Ⅰ～Ⅴ型）と自己免疫疾患について理解する 5) ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。
準備学習・時間外学習	
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻

授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
感染症学各論 犬と猫の感染症 ウイルス病 1. 狂犬病 2. 犬ジステンパー 3. 犬伝染性肝炎 4. 犬伝染性気管気管支炎（ケンネルコフ） 5. 犬パラインフルエンザ感染症 6. 犬パルボウイルス感染症 7. 犬コロナウイルス感染症 8. 猫ウイルス性鼻気管炎（猫ヘルペスウイルス 1 型感染症） 9. 猫カリシウイルス感染症 10. 猫汎白血球減少症（猫パルボウイルス感染症） 11. 猫白血病ウイルス感染症 12. 猫免疫不全ウイルス感染症 13. 猫コロナウイルス感染症 14. 猫のSFTS		6
細菌病 1. レプトスピラ症 2. ブルセラ症 3. クラミジア症 4. 猫のヘモプラズマ症（赤血球マイコプラズマ症）		2
真菌症 1. 皮膚糸状菌症		1
産業動物の感染症 ウイルス病 1. 口蹄疫 2. 牛伝染性リンパ腫 3. 牛ウイルス性下痢 4. アカバネ病 5. 豚流行性下痢 6. 豚熱（CSF） 7. アフリカ豚熱（ASF） 8. 高病原性鳥インフルエンザ		2
細菌病 1. 乳房炎 2. ヨーネ病 3. 牛の肺炎 4. 炭 疽		1
プリオン病 1. スクレイピー 2. 牛海綿状脳症		1
実験動物の感染症 ウイルス病 1. センダイウイルス感染症 2. マウス肝炎ウイルス感染症 3. 唾液腺涙腺炎 4. エクトロメリアウイルス感染症（マウス痘瘡） 5. ハンタウイルス感染症		1
細菌病 1. サルモネラ症 2. 肺マイコプラズマ症		1

3. ティザー病 4. ネズミコリネ菌症	
エキゾチックペットと野生動物の感染症 ウイルス病 1. アリューシャン病 2. オウム嘴羽病 3. ニホンカモシカのパラポックスウイルス感染症（伝染性膿疱性皮膚炎）	1
細菌病 1. ウェットテイル（増殖性回腸炎） 2. ウサギのトレポネーマ症 3. モルモットの頸部リンパ節炎 4. 鯨類のブルセラ症 5. 飼育下野生動物のエルシニア症	1
真菌症 1. メガバクテリウム症（Avian Gastric Yeast） 2. 鳥類のアスペルギルス症	1
寄生虫 動物寄生虫学総論 1. 歴 史 2. 寄生虫と動物寄生虫学の重要性 3. 寄生虫・宿主との相互関係 4. 動物寄生虫の分類 5. 寄生虫の生活環と生殖法 6. 感染経路と伝播形式 7. 寄生虫・衛生動物の病害と宿主の反応 8. 人獣共通感染症（ズーノシス） 9. 寄生虫症の治療と看護・ケアおよび予防対策	3
原虫類 1. 総 論 2. 赤痢アメーバ 3. ジアルジア（ランブル鞭毛虫） 4. トリコモナス 5. トリパノソーマ 6. リーシュマニア 7. アピコンプレックス類（孢子虫類） 8. ヘパトゾーン類 9. ピロプラズマ類	1
蠕虫類 第2章3-1 総 論 1. 形 態 2. 生活環 3. 分 類	1
線虫類 1. 総 論 2. 回虫類（犬・猫・豚回虫） 3. ギョウ虫類 4. アニサキス類 5. 鉤虫類 6. 糞線虫類 7. 広東住血線虫 8. ウマの円虫類 9. 胃虫・顎口虫類 10. 犬糸状虫 11. 東洋眼虫 12. 鞭虫類 13. 旋毛虫 14. 治療、看護・ケアおよび予防対策	1
吸虫類 1. 総 論 2. 肝 蛭 3. 横川吸虫	1

4. 肝吸虫 5. 壺形吸虫 6. 肺吸虫類 7. 日本住血吸虫 8. そのほかの吸虫類 9. 治療、看護・ケアおよび予防対策	
条虫類 1. 総 論 2. 犬、猫の条虫類 3. ウマ、ウシの条虫類 4. ネズミ、ハムスター、鳥の条虫類 5. ヒトの条虫類 6. 治療、看護・ケアおよび予防対策	1
衛生動物 1. 総 論 2. ダニ類 3. シラミ・ハジラミ類 4. ノミ類 5. 双翅類	2
寄生虫症の診断と検査 1. 総 論 2. 虫体の固定、保存、染色法 3. 糞便内原虫検査法 4. 糞便内蠕虫卵検査法 5. 血液検査法 6. 特殊な検査法 7. 虫卵培養法 8. 免疫診断法・遺伝子診断法	2
合計	30
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物看護学概論	
担当教員の実務経験	動物看護師としての経験がある	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	
授業の到達目標	1. 動物看護の基本となる概念 1) 動物看護の目的、概念について理解する 2) 獣医療と動物看護の歴史について理解する 3) 獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する 4) 動物にとっての健康、福祉、QOLについて理解する 5) 動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する 2. 動物看護の提供体制 1) 社会における動物病院の役割について理解する 2) 一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する 3) インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する 4) 診療録（カルテ）と動物看護記録の作成、保存義務について理解する 5) 職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する 3. 愛玩動物看護師の社会的立場 1) 愛玩動物看護師の職能団体について理解する 2) 愛玩動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する 3) 愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する 4) 国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
獣医療の歴史と概念 1. 獣医療の歴史 2. 獣医療倫理 3. 動物看護の歴史と概念 4. 国際的な動物看護師の業務や資格制度の違い		3
獣医療における動物看護学の理論と特徴 1. 動物看護理論の成立過程 2. 動物看護学の成立 3. 動物看護学と高等教育 4. 本章のまとめ		3
国家資格 愛玩動物看護師 誕生への道のり 1. 認定動物看護師の誕生 2. 動物看護学カリキュラムの構築と愛玩動物看護師の誕生 3. 愛玩動物看護師の職能団体		4

動物看護の役割と概念 1. 動物看護とは 2. 動物看護における倫理 3. 動物にとっての福祉・健康・QOL 4. 看護動物に影響を与える環境要因 5. 動物病院における動物看護師の役割 6. 動物看護の探求	
まとめ、確認テスト	5
合計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物形態機能学 I	
担当教員の実務経験	動物看護師	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	45コマ	3単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。	
授業の到達目標	哺乳類の体の仕組みの基礎を理解する。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物飼養管理士	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
人間の身体の全体像を知る		3
第1章 細胞・組織について （第1章 生命のすがた…物質、細胞、遺伝、組織、器官、調節システム） ○演習問題		3
第2章 血液・リンパ液・免疫について （第2章 血液と造血器…血球・血漿成分、赤血球・白血球の構造と機能、血小板機能と血液凝固機序及び線維素溶解） （第4章 生体の防御機構…防御機構、自然免疫、獲得免疫） ○演習問題		3
第3章 循環器系の働きと疾病について （第3章 血液循環とその調節…循環器系の概要、心臓のしくみ、心筋、周期、心電図、心臓機能の調節、血管のしくみと働き、血液循環調節、毛細血管（物質の移動）） ○演習問題		3
第3章 呼吸器系の働きと疾病について （第9章 呼吸とその調節…呼吸器の構造と呼吸、ガス交換） ○演習問題		3
第5章 骨格・筋系の働きと疾病について （第7章 からだの支持と運動…体の位置・方向を示す用語と表面解剖学的区分、骨格、骨格筋） ○演習問題		3
第4章 消化器系の働きと疾病について （第11章 消化吸収と栄養代謝…菌の分類と数、舌の形と働き、咽頭と嚥下、食道、胃腸、唾液腺、膵臓、肝臓、栄養素、栄養吸収、代謝総論、栄養素の分子のしくみ、代謝経路） ○演習問題		3
期末テスト・解説		3
第5章 泌尿器系の働きと疾病について		3

(第12章 尿の生成と体液調節…腎臓、尿路、体液、電解質バランス、酸・塩基平衡) ○演習問題	
第8章 生殖器系の働きと疾病について (動物繁殖学にて解説)	3
第9章 内分泌系の働きと疾病について (第10章 内分泌とホルモン…内分泌とは(外分泌と傍分泌との違い)、ペプチドホルモン、ステロイドホルモン、アミン型ホルモン、内分泌系の基本構造と機能、視床下部、下垂体、甲状腺、情飛翔体、副腎、ランゲルハンス島、消化管ホルモンの機能) ○演習問題	3
第10章 神経系の働きと疾病について (第5章 脳と神経…脳と神経系の役割、神経系を構成する細胞、静止膜電位と活動電位、興奮の伝導とシナプス伝達、シナプスとは(興奮性と抑制性)、神経伝達物質と受容体、神経回路、神経系、脳の構成要素、脳神経、脊髄と脊髄神経、自立神経系、行動の神経調節) ○演習問題	3
第11章 感覚器系の働きと疾病について (第6章 感覚と情報伝達…感覚系とは、受容器、体性感覚、嗅覚、味覚、聴覚と平衡感覚、視覚) (第8章 外皮系と体温調節…外皮、皮膚の付属器官、皮膚による体温調節機構) ○演習問題	3
第12章 感染症について (動物感染症学にて解説)	3
期末テスト・解説	3
合計	45
授業単位数	3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物形態機能学Ⅱ
担当教員の実務経験	動物看護師
対象学生	愛玩動物看護科 1年生
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []
授業の概要	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。
授業の到達目標	1. <u>生命のすがた</u> 1) 細胞の構造について理解する 2) DNAの働きについて理解する 3) 上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について理解する 4) 器官の成り立ちと維持、調整システムについて理解する 2. <u>循環器とその調節</u> 1) 心臓の構造について理解する 2) 心筋細胞の電気現象と心筋の興奮伝導系について理解する 3) ポンプとしての心臓機能と心電図、心音について理解する 4) 心臓機能の調節機構について理解する 5) 血管の種類と構造、機能について理解する 6) 血圧調節機構について理解する 3. <u>呼吸器とその調節</u> 1) 呼吸器の構造について理解する 2) 換気の仕組みについて理解する 3) 肺胞におけるガス交換について理解する 4) 血液による酸素と二酸化炭素の運搬について理解する 5) 呼吸運動の調節機構について理解する 4. <u>消化器と栄養代謝</u> 1) 消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）の構造と機能について理解する 2) 唾液腺、膵臓、肝臓の構造と機能について理解する 3) 消化と吸収の仕組みについて理解する 4) 各種栄養素（糖質、タンパク質、脂質）の代謝について理解する 5. <u>内分泌とホルモン</u> 1) 内分泌の定義について理解する 2) ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調節について理解する 3) 主な内分泌臓器の構造と機能について理解する 4) 主なホルモンの作用と標的器官について理解する 6. <u>泌尿器と体液調節</u> 1) 腎臓及びネフロン構造と機能について理解する 2) クリアランスの意味を知り、腎血漿流量と糸球体濾過量の調節機構について理解する 3) 尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について理解する 4) 体液の分布と区分、調節機構について理解する 5) 電解質バランスについて理解する 6) 酸・塩基平衡について理解する 7. <u>脳と神経</u> 1) ニューロンの構成と活動電位、シナプス伝達について理解する 2) 脳の構造と機能について理解する

	3) 脊髄の構造と機能について理解する 4) 体性神経の構成と機能について理解する 5) 自律神経の構成と機能について理解する 8. <u>運動器</u> 1) 骨格の構成について理解する 2) 骨の形状と構造について理解する 3) 関節の構造と働きについて理解する 4) 骨格筋の構造と収縮機構について理解する 5) 主な骨格筋の名称と機能について理解する 9. <u>血液と造血器</u> 1) 血球成分と血漿成分について理解する 2) 赤血球の構造と機能について理解する 3) 白血球の構造と機能について理解する 4) 血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解について理解する 10. <u>皮膚と感覚器</u> 1) 皮膚の構造と機能について理解する 2) 皮膚の付属器官について理解する 3) 体性感覚（皮膚感覚）について理解する 4) 特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）について理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
人と動物の体の違いを理解		7
動物種の体の違いを理解		8
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物形態機能学実習	
担当教員の実務経験	動物看護師	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	
授業の到達目標	1. 運動器 1) 骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する 2) 代表的な関節の名称と構造、機能について理解する 3) 代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する 2. 内臓器官 1) 模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する 2) 生殖器の雌雄差について理解する 3. 顕微鏡の取扱い 1) 顕微鏡各部位の名称、鏡検条件（倍率など）について理解する 2) 顕微鏡の適切な操作法について修得する 3) 顕微鏡の適切な管理法について修得する 4. 組織像の観察 1) 主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する 2) 組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	動物看護実習テキスト	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
実習の心構え 動物に接する者の心構え 身支度 環境整備 手洗い		1
骨格、筋肉、および内臓の形態と機能の理解 運動器、各部位および臓器の位置や関係性 主要内臓器官の配置		5
主要臓器の組織像観察 筋組織、内臓		5
顕微鏡操作法		2
演習問題		2
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物行動学
担当教員の実務経験	トリマー
対象学生	愛玩動物看護科 1年生
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []
授業の概要	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。
授業の到達目標	1. <u>動物行動学の基礎</u> 1) 動物行動学の4つの問い（適応・進化・機構・発達）について理解する 2) 行動の進化と適応、家畜化について理解する 3) 生得的行動と学習行動について理解する 4) 脳による行動制御について理解する 2. <u>個体維持行動</u> 1) 摂食及び飲水行動について理解する 2) 排泄行動について理解する 3) 身づくろい行動について理解する 4) 護身行動について理解する 3. <u>発達過程と社会行動</u> 1) 発達ステージ（新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期）と各時期の行動学的特徴について理解する 2) 生殖行動（性行動・母性行動）について理解する 3) コミュニケーション行動について理解する 4) 敵対行動と親和的行動について理解する 4. <u>学習理論</u> 1) 行動形成について理解する 2) 馴化と感作について理解する 3) 古典的条件づけとオペラント条件づけについて理解する 4) 学習に影響を与える因子について理解する 5) 基本的なトレーニング法（トイレトレーニング、クレートトレーニング、甘噛み対策など）について理解する 5. <u>問題行動</u> 1) 問題行動の定義と要因（遺伝的要因、生得的要因、環境要因）について理解する 2) 攻撃行動の種類、原因（動機づけ）と治療法について理解する 3) 恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法について理解する 4) 不適切な排泄行動の原因（動機づけ）と治療法について理解する 5) 高齢性認知機能不全の原因と臨床徴候、対応について理解する 6. <u>行動治療</u> 1) 行動診療の進め方について理解する 2) 行動修正法と環境修正法の種類と適応について理解する 3) 行動治療における薬物療法について理解する
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。
準備学習・時間外学習	

使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
動物行動学の基本概念 1-1 動物行動学の発展と行動学研究の4分野 1. 動物行動学の成り立ちと発展 2. 行動学研究の4分野 1-2 行動の進化と適応 1. 行動の進化と適応 2. 家畜化に伴う行動学的変化—犬を例として		1
維持行動の意味と効果 1. 摂食行動 2. 飲水行動 3. 排泄行動 4. 身づくろい行動 5. 護身行動		2
社会行動 3-1 群れの社会構造 1. 動物の社会行動とは 2. 群れの構造と行動 3. 社会性が不明瞭な動物の集団 3-2 生殖行動 1. 哺乳類の生殖戦略 2. 性行動 3. 母性行動（育子行動） 3-3 コミュニケーション行動 1. 動物のコミュニケーション行動と感覚世界 2. 犬の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動 3. 猫の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動 4. 犬と猫の嗅覚を用いたコミュニケーション行動 3-4 敵対行動と親和的行動 1. 敵対行動 2. 親和的行動		2
行動発現のしくみ 4-1 行動の動機づけと脳による行動の制御 1. 行動の動機づけ 2. 脳による行動の制御 4-2 行動の周期性 1. 行動の日周リズム 2. 行動の年周リズム 3. その他の周期性		2
行動の発達と学習 5-1 行動の発達 1. 行動の発達科学 2. 新生子期（犬） 3. 移行期（犬） 4. 社会化期（犬） 5. 若年期 6. 成熟期から高齢期 7. 猫の行動発達 5-2 遺伝的要因と環境要因が行動発達に与える影響 1. 社会構造の影響 2. 母性行動の影響		2

3. 遺伝と環境 5-3 馴化と感作 -学習に影響を与える因子 1. 馴化 2. 感作と脱感作 3. 般化 4. 学習に影響を与える因子 5-4 古典的条件づけとオペラント条件づけ 1. 古典的条件づけ 2. 高次条件づけ 3. オペラント条件づけ 4. 三項随伴性 5. 条件づけの方法と消去 6. 反応形成	
問題行動と行動診療 6-1 問題行動とは 1. 正常行動・異常行動・問題行動とは 2. 問題行動の関連因子 3. 愛玩動物看護師にとっての臨床動物行動学の必要性 6-2 問題行動診療とは 1. 行動診療とは 2. カウンセリングとコンサルテーション 3. 獣医師の役割 4. 愛玩動物看護師の役割 5. 問題行動の客観的評価法 6. 治療プログラムの作成とフォローアップ 6-3 問題行動治療の実際の手順 1. 問題行動治療の考え方 2. 環境整備（環境操作） 3. 行動修正法 6-4 問題行動診療で用いるその他の方法 1. 薬物療法 2. 不妊手術・去勢手術 3. その他の外科的療法 4. 合成フェロモン 5. 食事療法とサプリメント 6. 基本的なトレーニング 7. 問題行動治療の助けになるグッズ	3
犬と猫における主な問題行動 7-1 攻撃行動 1. 犬の攻撃行動 2. 犬の攻撃行動に関係する生得的因子と環境因子 3. 猫の攻撃行動 4. 猫の攻撃行動に関係する生得的因子と環境因子 5. 犬と猫の攻撃行動の治療 7-2 犬の恐怖・不安に起因する問題行動 1. 恐怖・不安とは 2. 恐怖・不安に起因する問題行動の種類・定義・診断基準 3. 恐怖行動・不安行動に関する生得的因子と環境因子 4. 恐怖行動・不安行動の治療 7-3 猫の排泄に関する問題行動 1. 猫の排泄に関する問題行動の定義・診断 2. 排泄に関する問題行動に関連する生得的因子と環境因子 3. 猫の排泄に関する問題行動の治療 7-4 犬と猫の高齢性認知機能不全	3

1. 定義・診断 7-5 犬と猫の高齢性認知機能不全 1. 定義・診断 2. 病因と寄与因子 3. 治療 ―進行を抑える―	
合計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物生活環境学
担当教員の実務経験	ペットサロンにてトリマーおよび生体販売の経験がある
対象学生	愛玩動物看護科 1年生
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []
授業の概要	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。
授業の到達目標	<u>1. 飼養環境整備</u> 1) 動物行動学を踏まえた人とペットのための飼養環境整備の必要性や方法（問題行動予防を含む。）について理解する 2) ペット共生住宅の現状、環境整備・管理の方法について理解する <u>2. ペットツーリズム関連施設、ドッグラン</u> 1) ペットツーリズムの現状と実施方法について理解する 2) ペット同伴宿泊ホテルの環境整備・管理の方法について理解する 3) ドッグランの環境整備・管理の方法について理解する 4) ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興について理解する <u>3. 保護収容施設</u> 1) 動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備・管理の方法、シェルターメディアソンについて理解する 2) 動物愛護管理センターの役割、施設の概要、普及啓発活動について理解する <u>4. ペットへの教育・訓練施設</u> 1) 動物の社会化トレーニングの意義、必要性、方法、施設等について理解する <u>5. 動物介在教育施設</u> 1) 学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法について理解する <u>6. ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応</u> 1) 飼育マナーの必要性や目的について理解する 2) 飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違いについて理解する 3) 地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例について理解する 4) 愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナーについて理解する 5) ペット保険の仕組みと実態について理解する
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。
準備学習・時間外学習	
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻、愛玩動物飼養管理士
授業上の注意点	
授業計画（内容）	
飼養環境整備 1. 犬と猫の飼養環境整備に関わる法律・基準 2. 犬の飼養環境整備	3

3. 猫の飼養環境整備 4. ペット共生の現状 5. 犬たちとの暮らし方 ―環境整備・管理の方法― 6. 猫たちとの暮らし方 ―環境整備・管理の方法― 7. シニアペットとの暮らし方 ―環境整備・管理の方法― 演習問題	
ペットツーリズム関連施設、ドッグラン 1. ペットツーリズムの現状と実施方法 2. ペット同伴宿泊施設の環境整備と管理 3. ドッグランの環境整備と管理 4. ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興 演習問題	3
保護収容施設 1. 動物愛護管理センター等の役割 2. 動物収容保護施設での飼養管理 3. 災害時のシェルターの役割 4. シェルターメディスン 演習問題	2
ペットへの教育・訓練施設 1. ペット飼育に関する課題 2. ペット飼育の課題と教育の関係性 3. 飼い主教育における愛玩動物看護師の役割 4. 社会化トレーニングの基礎 5. パピークラスにおける教育内容 6. 教育施設の種類	2
動物介在教育施設 1. 法的背景 2. 学校飼育動物等の施設の環境整備・管理 演習問題	2
ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応 1. 飼育マナーの必要性や目的 2. 飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違い 3. 地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種条例 4. 愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナー 5. ペット保険の概要 演習問題	3
合計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物内科看護学 I	
担当教員の実務経験	動物看護師としての経験がある	
対象学生	愛玩動物看護科 1 年生	
授業時間数・単位数	30コマ ・ 2単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	
授業の到達目標	<u>健康の保持・増進</u> 1) 健康診断の内容と目的について理解する <u>診療補助に必要な技術</u> 1) 診察における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) 診察室の準備と衛生管理について理解する 3) 動物種ごとの適切な接し方について理解する 4) 保定の基本的な原理、目的、方法について理解する 5) 身体検査・アセスメント項目（体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間（CRT）、浅在リンパ節など）について理解する <u>検査・処置に必要な技術</u> 1) 注射器の取扱い及び管理方法について理解する 2) 採血の目的と方法について理解する 3) 採尿の目的と方法（穿刺、カテーテル導尿など）について理解する 4) 穿刺と吸引について理解する 5) 各種カテーテル挿入について理解する 6) 酸素吸入について理解する 7) マイクロチップの挿入について理解する <u>投薬に関わる技術</u> 1) 薬の処方について理解する 2) 内服薬の使用法について理解する 3) 薬剤の注射法について理解する 4) 外用薬の使用法、薬浴の実施法について理解する 5) 投薬前後の注意事項について理解する <u>輸液に関わる技術</u> 1) 輸液の適応とリスクについて理解する 2) 輸液計画について理解する 3) 各種輸液剤の特性や適応について理解する 4) 輸液中のモニタリングについて理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻、コンパニオンアニマルの新健康管理学	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
動物の健康保持・増進 1. 入院動物の日常管理 2. 動物種による管理上の注意点		

3. 排泄の管理 4. ワクチネーション 5. 外部寄生虫の確認 6. 高齢動物の入院看護 7. 幼若動物の入院看護 8. 身体検査・アセスメント（評価）項目 9. 入院動物に関するその他の業務	4
衛生・安全管理と環境整備 1. 標準予防策の実際 2. 検疫と隔離 3. 感染コントロール 4. 安全管理対策 5. 動物飼養管理中の事故防止 6. 動物に応じた環境調整 7. 動物に応じた入院室整備	3
対動物関係の技術 1. 動物へのアプローチ 2. 安全な散歩および運動技術 3. ハンドリングと保定法 4. 動物の処置や検査、状態にあわせた保定法 5. 電法	4
動物の生活を援助するための技術 1. 健康な食生活 2. 栄養状態の評価と栄養管理 3. 栄養の補給法 4. 摂食行動のアセスメントと援助方法 5. 排泄行動のアセスメントと排泄物の観察 6. 自然な排泄を促す援助方法 7. 強制的な排泄 8. 外科的な排泄障害 9. 清潔行動のアセスメントと援助方法 10. 身体各部の清潔の援助方法 11. 休息・睡眠状態のアセスメントと援助方法	4
診療補助に必要な技術 1. 診療時における愛玩動物看護師の役割 2. 診療時における対象動物の心理 3. 診療時における飼い主の心理 4. 診療時に必要な器具とその準備、管理方法	4
検査・処置に必要な技術 1. 注射器の取り扱い及び管理方法 2. 採血 3. 穿刺 4. カテーテルの挿入・留置および管理 5. 侵襲の可能性をとまなうその他の処置 6. マイクロチップの挿入	4
投薬に関わる技術 1. 投薬に際して確認すべき項目 2. 各剤形の取り扱い 3. 薬剤の保存 4. 投与方法とその介助	4
輸液に関わる技術 1. 輸液処置時における動物看護師の役割 2. 輸液の適応とリスク 3. 輸液計画 4. 各種輸液剤の適応や特性 5. 輸液に関わる手技 6. 静脈留置針設置の準備と手順 7. 輸液処置中のモニタリング	3
合計	30
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物内科看護学実習 I	
担当教員の実務経験	動物看護師	
対象学生	愛玩動物看護科 1年生	
授業時間数・単位数	30コマ	2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	
授業の到達目標	<u>身体検査</u> 1) 全身状態（意識レベル、ボディコンディションスコア、粘膜色、浅在リンパ節、体重測定を含む。）を評価できる 2) バイタルサインを評価できる（体温、脈拍数、呼吸数、毛細血管再充満時間（CRT）、股動脈圧） <u>診察補助</u> 1) 診察の準備や診察室の衛生管理ができる 2) 基本的な保定を実施することができる 3) 聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる 4) 採血・採尿（尿カテーテルの挿入を含む。）の手順を習得している 5) 薬剤の取扱い、経口投与・注射の手順を習得している <u>輸液・輸血に関わる技術</u> 1) 留置針設置の手順を修得し、準備及び補助ができる 2) 輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる 3) 輸液・輸血中の動物を管理できる	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	手技の習得のため反復練習を行なうこと	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
診療補助と身体検査（保定・バイタルサイン評価）		5
輸液管理		5
輸血管理		5
注射器の取り扱い		5
動物看護技術の実践と応用		5
演習問題		5
合 計		30
授業単位数		2